小学生の部 最優秀作品

「あったかロード」から学んだこと

岡山市立御野小学校　五年
菱川萌花

「おはよう。今日もがんばってこいよ。応えんしとるぞ。」

毎朝、私が登校するときに、私のマンションの近くの通学路とちゅうの家の庭から、決まって声をかけてくれるおじいさんがいます。私が通りがかると、急に戸がガラガラっと開いて、おじいさんが出てきます。

「今日はいつもよりおそいで。急いで行かなきゃだね。」

時にはそんなことを言われることもあり、引っこしてきたばかりのころは、びっくりして、何も言えずに急ぎ足で通り過ぎてしまっていました。しかし、ある時、同じマンションの人から、道の両側に住たくがならんでいるその通学路は、「あったかロード」とよばれていて、そこに住んでいるおじいさんやおばあさんが、そこを通る小学生みんなに、やさしくあたたかく声をかけてくれているのだと聞きました。そして、他の地いきにくらべると、この地いきは犯罪が少ないのだけど、それは地いきの人たちがそうやって「見守り」「声かけ」を続けてくれていることと無関係ではないと思うということを聞いたとき、私は、そうやって無言で急いで通り過ぎていたことが、何だかとてもはずかしい気持ちになりました。

その話を聞いてからは、私もそのおじいさんの言葉に返事をしたり、こちらからあいさつしたりするようになりました。思い返してみると、おじいさんは最初から笑顔でしたが、私が返事やあいさつをするようになってからは、もっと大きな笑顔で話しかけてくれるようになりました。今では、おじいさんの笑顔が出てこないと、少しその家の前で待ってみたり、のぞき込んだりもしています。おじいさんが笑顔で話しかけ続けてくれたからこそ、私も「あったかロード」の一員となることができたような気がしていて、すれちがう他のおじいさんやおばあさんに大きな声であいさつできるようにもなりました。

犯罪というと少し大げさな感じがしてしまいますが、この体験で気づいたことは、私たちの学校生活で関係する話でいうと、ひとりぼっちになってしまったり、いじめが起こってしまったりすることの防止にもつながると思います。それは、近くにいる人、同じエリアでいっしょに過ごす人に対し無関心になるのではなく、その人の様子を見守って、変化に気づきながら声をかけることが大切だという